

平成 22 年 12 月 28 日

全国銀行の平成 22 年度中間決算の状況(単体ベース)

<要 旨>

1. 経常利益

経常収益は、国債等債券売却益の大幅な増加によりその他業務収益が大幅に増加したものの、資金運用収益が減少したことから、8兆1,290億円（前中間期比1,598億円、1.9%減）となった。

経常費用は、資金調達費用が減少したことに加え、個別貸倒引当金繰入額および貸出金償却の大幅な減少によりその他経常費用が減少したことから、6兆1,296億円（同1兆1,657億円、16.0%減）となった。

この結果、**経常利益**は、1兆9,993億円（同1兆58億円、101.2%増）と2年連続して大幅な増益となった。

2. 中間純利益

中間純利益は、1兆6,284億円（同7,598億円、87.5%増）と2年連続して大幅な増益となった。

3. 業務純益

業務純益は、2兆8,076億円（同4,141億円、17.3%増）と2年連続して増益となった。

(注) 平成 22 年度中間決算における**全国銀行**とは、都市銀行 6 行(みずほ、三菱東京UFJ、三井住友、りそな、みずほコーポレート、埼玉りそな)、地方銀行 63 行、地方銀行Ⅱ(第二地方銀行協会加盟銀行) 42 行、信託銀行 6 行(三菱UFJ信託、みずほ信託、中央三井信託、住友信託、野村信託、中央三井アセット信託)、新生、あおぞらの 119 行である。